

進捗状況の概要（1ページ以内）

【学内の実施体制】

アサーティブ課専任職員が1名増員となった。申請時の体制に部分的な変更はあるが、右記の体制で実施している。

【中心となる取組】

アサーティブ入試入学者190名を対象にヒアリングを行った際、アサーティブスタッフを活用した。対象者190名に対して、120名のヒアリングを実施した。

(63.2%)。アサーティブスタッフは、上級生としての気づきがあり、新生は学生生活や学びへのアドバイスを受けることができたようになった。面談職員研修を実施した。参加者数は、37名（参加率61%）であった。アサーティブプログラム受講の学生による発表を取り入れた。面談職員同士のグループディスカッションでは、1人ひとりがこれまでの面談を振り返りながら、多くの課題提議がされ、大変有意義なものとなった。学生による発表は、学生自身の経験談であり、改めて面談が重要であると面談職員の共通認識となった。

【取組の成果】

アサーティブガイダンス参加者数は、延人数1,014名（前年比109%）となった。リピーター面談者数も206名（前年比133%）となった。また、5月に実施したアサーティブイベントでは、講演会参加者数は115名、その後のアサーティブガイダンス参加者数は202名、個別面談は110名となった。

29年度のアサーティブプログラム総受講者数は772名（実人数）となり、うち高校3年生は731名（実人数）となった。アサーティブ入試志願者数は383名で、合格者は197名となった。更に、重点地域である沖縄県の高校からの講演依頼に応え、アサーティブ講演を9校で実施することもでき、沖縄県からの志願者が29名（前年比207%）となった。総括として、アサーティブプログラム受講者の本学入試受験者数は、複数受験を含め807名となった（アサーティブ入試受験を含む）。アサーティブプログラムを経て入学してきた学生は376名で、全入学者の約2割となった。これは、アサーティブの取り組みが広く認知されてきたと考えられる。滋賀県教育委員会指定5校からの志願者数は、321名（前年比176%）となった。アサーティブプログラムからの出願（アサーティブ入試以外の入試を含む）率は73.6%、出願者の合格率は71.0%、合格からの入学率は98.2%となった。また、アサーティブプログラム受講者の指定校推薦入試への受験者数は増加（前年比123.0%）しており、本学を第一希望とする受験生が増えていると考えられる。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

12月の外部評価委員会では、事業報告と意見交換を行った。3月の外部評価報告会では、委員会からの意見に対する回答とこれまでの取り組みの成果報告及びアサーティブ研究センターとベネッセ教育総合研究所との共同研究の報告を行った。今後は適正規模をより意識して取り組むこと、更なる質保証に転換していくこと、SD・FDがますます重要になり、体制を整えることが必要であるなどの評価結果となった。これを受け、改善に取り組むこととした。

【学内外への波及効果】

MANABOSSの問題数を計画通り増やすことができた。言語能力問題(1,505問)、非言語能力問題(1,650問)、バカロレア問題(28問)、英検問題(2,421問)、総数は5,604問となった。MANABOSSの基礎を学び直す補助サイトとして「MANABOSSドリル」(35,903問)を導入し、中学校レベルからの学び直しができるようになった。高校から学年単位・クラス単位での利用相談や古典問題の搭載などの要望も寄せられるようになった。なお試験的ではあるが、岡山県のある公立高校では学校単位でMANABOSSを活用することとなった。

追手門学院大学 大学教育再生加速プログラム実施体制

